

思いをかたちに

仙台市民が復興を目指して前へ進もうとする中で、仙台市の小学生は、復興にどう関わり、実践しようとしてきたのでしょうか。

1 被災地とつながろう

南小泉小学校では、震災後、地域の仮設住宅に住む荒浜地区の方々と交流をしてきました。

震災後に児童が指編みで作ったエコたわしをプレゼントしたことをきっかけに、平成24年度の4年生は仮設住宅の方々から、荒浜（仙台市若林区）での震災体験を聞きました。そして、自分たちにも何かできることはないだろうかと考えました。

2 被災地の活動を応援しよう

4年生は、荒浜のみなさんが、地域復興のために、津波による塩害で使えなくなった田んぼに綿を植え、「東北コットンプロジェクト」に取り組んでいることを知りました。そこで、全校児童や地域に綿の種を配布し、一人一鉢の綿栽培を呼びかけました。また、実際に荒浜で、綿花畑の草取りをしました。

心をこめて育てた綿の花に児童は喜びの声を上げていました。学校や地域で収穫した綿は荒浜の被災者におくられました。



綿の種まき



荒浜で綿花畑の草取り

3 地域に広げよう

児童が育てた綿は、荒浜で育てられた綿といっしょに、「東北コットンプロジェクト」に送られ、他の被災地域から集められた綿とともにタオルやシャツなどの綿製品になりました。そのタオルをPTAバ

ザーで5・6年生が協力して販売しました。5・6年生は販売のための看板を作ったり、自分たちが荒浜の方々から学んだことやメッセージを商品のふくろにそえたりしました。綿にこめられた思いを、買ってくれる人に伝えたいと強く願ったからです。

南小泉小学校では、現在もこのプロジェクトに取り組んでいます。

毎年4年生は、荒浜のみなさんから話を聞き、その思いを引きついでいます。そして南小泉の地域にも、少しずつ綿作りの輪が広がっています。（※）綿は、英語で「コットン」といいます。



収穫した綿の贈呈式



バザーで児童が販売協力

? 考えよう

○私たちの身近なところで、復興が進められています。それぞれの地域や学校で行われていることを調べ、自分たちにできることを考えてみましょう。

「共に生きよう名取川」（総合的な学習の時間）～西中田小学校の取組～

西中田小学校の5年生は、名取川でサケの遡上を観察し、ゲストティーチャーから「東日本大震災のときに放流されて海に出て行ったサケである」ことを教えられました。その後、児童は組合の方からサケの卵をもらい受け、一生けん命育て、稚魚を名取川に放流してきました。



名取川を遡上するサケ



サケの稚魚を放流する子供たち

さらに、被災した名取川下流の「閑上」をおとずれ、復興を目指してがんばっている方々の話を聞いた児童は、自分たちが未来の社会のために何ができるかを真剣に考え、国連防災世界会議の場で発表しました。